

スペイン語ガイドブック

■数詞

● 1. 数詞とは？

数詞は数を示します。意味によって、一般の数字を示す基数詞と順番を示す序数詞があります。それぞれに名詞、代名詞、形容詞としての働きがあります。

● 2. 基数詞は？

全体を次のように分類します。

(a) 1: uno

unoには女性形unaがあり、男性単数名詞の前で短縮形unが使われます¹。20以下の合成語(21, 31, 41, 51, ...)でも名詞の前では女性形と短縮形が使われま

- Uno y uno son dos. // 1 足す 1 は 2.
- Vamos a terminar este trabajo en 21 (veintiún) días. // この仕事を 21 日間で仕上げましょう。
- Hay treinta y una personas en la sala. // ホールには 31 人の人がいます。

(b) 2 ~ 10

基本的な部分なのでこのまま覚えましょう。

- 2 dos, 3 tres, 4 cuatro, 5 cinco, 6 seis, 7 siete, 8 ocho, 9 nueve, 10 diez.

(c) 11 ~ 15

語尾の ce が特徴です。

- 11 once, 12 doce, 13 trece, 14 catorce, 15 quince.

¹ 形容詞として使われるときは、不定冠詞の意味で使われることが多いです。

(d) 16 ~ 19

diez y ...という形が合成したものです。16 のアクセント記号に注意しましょう。

- **16** dieciséis, **17** diecisiete, **18** dieciocho, **19** diecinueve.

(e) 20 ~ 29

21 以下は veinte y ...という形が合成したものです。22, 23, 26 のアクセント記号に注意しましょう。

- **20** veinte, **21**veintiuno, **22** veintidós, **23** veintitrés, **24** veinticuatro, **25** veinticinco, **26** veintiséis, **27** veintisiete, **28** veintiocho, **29** veintinueve.

(f) 30 ~ 99

「10 の位 y 1 の位」という形で合成します。ここでは 10 の位だけを覚えましょう。

- **30** treinta, **31** treinta y uno, **32** treinta y dos, **33** treinta y tres, ..., **40** cuarenta, **50** cincuenta, **60** sesenta, **70** setenta, **80** ochenta, **90** noventa.

(g) 100 ~ 199

100 ciento は名詞の前で短縮して cien という形になります。

- cien libros // 100 冊の本

101-199 は ciento の後に 2 桁の数字を続けます。

- **101** ciento uno, **102** ciento dos, **103** ciento tres, ..., **110** ciento diez, **111** ciento once, **112** ciento doce, **113** ciento trece, ..., **120** ciento veinte, **130** ciento treinta, **140** ciento cuarenta, ..., **190** ciento noventa, **191** ciento noventa y uno, **192** ciento noventa y dos, ..., **199** ciento noventa y nueve

(h) 200 ~ 999

200 以下は基本的に「1~9 の数詞+cientos」という合成語になります。500 はまったく不規則で、700, 900 の形は少し不規則です。端数があるときは、これらの 100 台の数詞の後に続けます。

- **200** doscientos, **201** doscientos, **202** doscientos, ..., **299** doscientos, **300** trescientos, **400** cuatrocientos, **500** quinientos, **600** seiscientos, **700** setecientos, **800** ochocientos, **900** novecientos, ..., **999** novecientos noventa y nueve.

(i) 1.000 ~ 999,999

1000 の単位はmilを使います²。これは数詞として使うときは複数形になりません。2.000 は「2 掛ける 1000」という意味で、dos mil, 10.000 は「10 掛ける 1000」という意味で diez mil となります。

- **1.000** mil, **1.001** mil uno, **1.002** mil dos, ..., **1.999** mil novecientos noventa y nueve³, **2.000** dos mil, **2.001** dos mil uno, **2.002** dos mil dos, ..., **3.000** tres mil, **4.000** cuatro mil, **5.000** cinco mil, **6.000** seis mil, **7.000** siete mil, **8.000** ocho mil, **9.000** nueve mil, **10.000** diez mil, **11.000** once mil, ... **20.000** veinte mil, **30.000** treinta mil, ..., **100.000** cien mil, **200.000** doscientos mil⁴, **300.000** trescientos mil, **400.000** cuatrocientos mil., **500.000** quinientos mil, ..., **900.000** novecientos mil, ... **999.999** novecientos noventa y nueve mil novecientos noventa y nueve.

(j) 1.000.000 ~

「100 万」は un millón, 「200 万」は dos millones です。これらは名詞なので、形容詞として名詞の前に直接置くことができません。名詞の前に置くときは de をつけて続けます。

- **1.000.000** un millón, **2.000.000** dos millones, **3.000.000** tres millones, **4.000.000** cuatro millones, ..., **10.000.000** diez millones, **20.000.000** veinte millones, ... **100.000.000** cien millones, ..., 999.999.999 novecientos

² 1000 桁の区切りはスペインではピリオド(.)を使い、ラテンアメリカではコンマ(,)を使います。

³ 年号にはピリオド (やコンマ) はつけません。

- En 1992 (mil novecientos noventa y dos) se celebraron Juegos Olímpicos en Barcelona. // 1992 年にバルセロナでオリンピック大会が開催された。

⁴ 女性名詞の前では doscientas mil となります。300.000 以下も同様です。

- 200.000 (doscientas mil) personas // 200.000 人

noventa y nueve millones novecientos noventa y nueve mil novecientos noventa y nueve.

- 5.000.000 yenes (cinco millones de yenes) // 500 万円

● 3. 序数詞は？

(1) 英語の first, second, ... にあたるスペイン語は次のようになります。

- 1.º primero, 2.º segundo, 3.º tercero, 4.º cuarto, 5.º quinto, 6.º sexto, 7.º séptimo, 8.º, octavo, 9.º noveno, 10.º décimo

(2) これらは女性形と複数形があります。

- Hoy tenemos la primera clase de español. // 今日私たちは最初のスペイン語の授業があります。
- Los segundos hijos muchas veces destacan en áreas donde al mayor no les lleva ventaja. // 次男は長男にかなわない分野で抜きんでることが多い。

(3) primero と tercero は男性名詞の前で、短縮してそれぞれ primer, tercer となります。

- Vivo en el tercer piso. // 私は3階に住んでいます⁵。

(4) 4.º (cuarto)以下は分数の分母としても使われます⁶。

- 1/4 un cuarto, 1/5 un quinto, 1/6 un sexto, 1/7 un séptimo, 1/8 un octavo, 1/9 un noveno, 1/10 un décimo.

これらは parte 「部分」 を使って次のように言うこともあります⁷。

⁵ スペインでは建物の入口の階が piso bajo と呼び、階段を上って最初の階が primer piso と呼ぶので、tercer piso は「4階」になります。

⁶ 1/2 と 1/3 はそれぞれ un medio, un tercio と言います。

⁷ parte を使えば 1/3 は una tercera parte となります。1/2 は mitad でも表現できます。

- 1/4 una cuarta parte, 1/5 una quinta parte, 1/6 una sexta parte, 1/7 una séptima parte, 1/8 una octava parte, 1/9 una novena parte, 1/10 una décima parte. ◇ parte (女) 部分

分詞が2以上のときは分母を複数にします。

- 2/4 dos cuartos, 2/5 dos quintos, 2/6 dos sextos, 2/7 dos séptimos, 2/8 dos octavos, 2/9 dos novenos, 2/20 dos décimos.

スペイン語の質問

* 「ゼロ」は単数ですか？

「ゼロ」は cero と言いますが、形容詞として使うときは修飾する名詞が複数形になります。たとえば次は情報科学で扱う「正規表現」の説明です。

- En Expresiones Regulares, X^* es equivalente a $X\{0,\}$ (cero veces o más); X^+ es equivalente a $X\{1,\}$ (una vez o más); $X^?$ es equivalente a $X\{0,1\}$ (cero veces o una). // 正規表現において、 X^* は $X\{0,\}$ (ゼロ回以上)と等価であり、 X^+ は $X\{1,\}$ (1回以上)と等価であり、 $X^?$ は $X\{0,1\}$ (ゼロ回か1回)と等価である。◇equivalente (形) 等価な

* スペイン語で年号を言うときは英語のように 1919 ナインティーン, ナインティーンのように言うのですか？

いいえ、たとえば 1919 は mil novecientos diecinueve と言います。電話番号を言うとき数字を2桁ごとに区切って読むこともあります⁸。そのときは、diecinueve, diecinueve となります。

⁸ 1桁ごとに言うこともあります。

- 987-1234 (nueve, ocho, siete, uno, dos, tres, cuatro)

*** cien mil で 10 万 (100×1.000) となる、とありましたが、掛け算はこのように続けて数字を言えばよいのですか？**

これは数字の場合です。1 万ならば *diez mil*, 10 万ならば *cien mil* です。そして 100 万になると *millón* という別の単語を使います。そして 1000 万のときは *diez millones* とします。このとき *millón* は複数形をつかいます。一方、一般の掛け算はたとえば、 $25 \times 3 = 75$ ならば *veinticinco multiplicado por tres igual a setenta y cinco* のように言うので、 100×1.000 も *cien multiplicado por mil igual a cien mil* となります⁹。

スペイン語の理由

*** なぜ 11~15 までが特殊な形をしていて、16 以降が規則的になっているのですか。英語では 11 と 12 だけが異なるので気になります。**

ラテン語では 11 から 17 まですべて「1 の位の数字 + 10 (decim)」という形でした(18 と 19 はそれぞれは「20-2」、「20-1」という言い方をしました)。decim は 10 (Lat. decem > Sp. diez) と同じです。たとえば 11 は「1 + 10」(un + decim > undecim) という言い方になります。スペイン語の時代になると、11, 12, 13, 14, 15 は undecim > once, duodecim > doce, ... のように ce で終わる語となって、古いラテン語の形をそれなりに保ちました。現代スペイン語の 11~15 の...ce という語尾は diez の z と起源を共通にしているわけです。一方、16 と 17 はそれぞれ「10 + 6」(diez y seis > dieciséis)、「10 + 7」(diez y siete > diecisiete) という一般の形に合流しました (たとえば 36 は treinta y seis)。11~15 のように特殊な形が残るのは頻度の高い語の場合です。小さな数字のほうが大きな数字より多く使われていたからでしょう。

⁹ multiplicado por は長いので por と略すこともあります。

*** どうして dieciséis にアクセント記号がつき、diecisiete, dieciocho はアクセント記号がつかないのですか？**

10 台、20 台の s で終わる数詞はアクセント記号をつけないと規則により後ろから 2 番目の音節にアクセントが来ることになり、正しい発音になりません。たとえば dieciséis では ci が強く読まれることになります(seis は二重母音)。これを防ぐために seis にアクセント記号をつけます。一方、diecisiete はアクセント記号をつけなくても、そのまま sie に強勢が置かれます。

*** cinco, quince, cincuenta, quinientos と頭文字が変わるのはなぜですか？**

歴史を遡るとこれらは皆同じ語源にたどり着きます。それは「5」という意味で quin(q)となり、語頭の音は[kw]「クウ」でした。このようにどれも同じ語源の音に由来するのですが、cinco と cincuenta は[k-k]という子音の連続が嫌われて[θ-k]と変化しました。一方、quince と quinientos は[k-k]という子音の連続がないので、[k]の音が保たれました。

*** 30, 40, ...は nta で終わるのに、なぜ 20 は nte で終わるのですか？**

20, ..., 90 は次のようになります。veinte, treinta, cuarenta, cincuenta, sesenta, setenta, ochenta, noventa。確かに veinteの語尾だけが違います。ラテン語でも次のように 20 だけが違っていました。vi:ginti:, tri:ginta:, quadra:ginta:, quinquaginta:, sexa:ginta:, septua:ginta:, octo:ginta:, no:na:ginta:¹⁰。ラテン語の語末のi:はラテン語のeに変化、語末のa:はスペイン語ではaとなります。

それでは、なぜラテン語の 20 だけ特殊な語尾(i:)を持っていたのでしょうか。これにはいくつかの説があります。(1) 双数を示す*(d)ui に由来する(Ernout (1974: 108), Rodríguez Adrados (1975:879))。(2) 語中の-i-に同化した

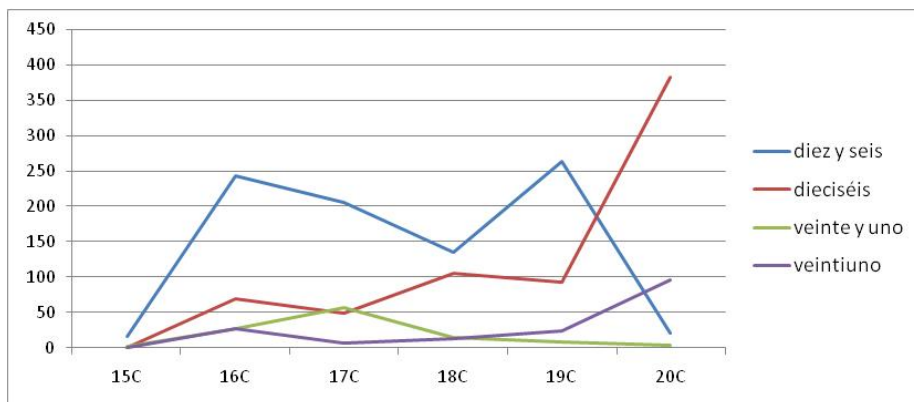
¹⁰ ginti:, ginta: は「10」を意味する*dek-m + ta に由来します。dek は diez の語源です。ta:は印欧語の「集合」の意味をもつ接尾辞に由来します。Monteil (2003: 284).

(Rodríguez Adrados, Bernabé y Mendoza (1998: 133)). (3) 「集合」の意味をもつ接尾辞-*ti に由来する(Monteil (2003: 285)).

このように原因については定かではありませんが、このように1つだけ違うようなパターンがあると、言語の性質として一般の傾向に合流することが多いのですが、「20」は *veinta* という形にはなりません。これは *veinte* の使用頻度が高かったからだと思います。(あまり使われない語は、一般の傾向に従います。)

* 30 までは 1 語なのに、どうして 30 より大きい数字は y をはさんで 3 語にするのですか？

歴史を通じて 16 より大きな数は書き方が 2 つありました。資料を調べてみると次のような結果になりました¹¹。このように 19 世紀までは「... y ...」という形のほうが優勢だったようです。 *treinta y ...*以降は語尾が *a* なので $a + i > i$ という変化にならなかったようです。これに対して *veinte y...* の場合は $e + i > i$ のように変化しやすかったのでしょうか。 *diez y ...* の場合はそのままつけばよいのですから、さらに容易な変化だったわけです。



*	15C	16C	17C	18C	19C	20C
diez y seis	16	242	205	135	263	21
dieciséis	1	70	49	106	93	382

¹¹ C は「世紀」、数字は語形が見つかった回数を示します。

veinte y uno	2	27	57	15	9	3
veintiuno	0	26	7	12	24	96

*** 100 だけ特殊で覚えにくいですが, % (percent)を連想するとよい, という解説を聞きかなり印象に残るようになった。アメリカ, カナダなどの通貨単位であるセント(cent)は 1 ドルの 100 分の 1 である。関係あるのだろうか？**

→セント(cent)も同じ語源です。スペイン語圏では centavo や céntimo が使われます。

*** 3 桁の数字の読み方について。たとえば 199 のとき英語だと one hundred and ninety nine だが, スペイン語だと ciento noventa y nueve となり, and と y という「と」の意味の言葉を入れる位置が違っているのはなぜですか。**

とてもよい観察です。古いスペイン語では英語と同じように 100 と 10 の位の間に y がついている形も見られますが、だんだんと今の形に統一されるようになりました。

*** 数は名詞の前につけているのに, 年をいうときはたとえば, el año 1492 のように後ろにつけているのはなぜですか？**

数が名詞の前にあるときは, それが数形容詞として「...個の」という意味のときです。たとえば, 200 (doscientas) casas 「200 軒の家」。一方 el año 1492 は el año と 1492 が同格の関係で, 「1492 という年」という意味になります。ここでは「年」が 1492 個あるわけではないので後ろにつけています。一方, 「5 個の年」つまり, 「5 年」という意味ならば前につけて cinco años となります。また名詞が複数になることにも注意しましょう。

*** 「1000」の mil はどうして 2000, 3000...となっても mil のまま語尾が変化しないのですか？**

ラテン語の mille には複数形がありました。たとえば 2.000 は duo milia のようになります。中世スペイン語ではこの milia という形を使わずに，dos veces mil 「1000 を 2 回」というようになりました。この形から dos mil となったようです。